

# 滋賀県森林センターだより 2009年度 (第30号)

## 試験研究情報

### ◆松くい虫(マツノザイセンチュウ)抵抗性アカマツ 林地における抵抗性実証実験について

森林センターでは、松くい虫(マツノザイセンチュウ)抵抗性アカマツの林地における抵抗性を実証するため、平成4年度から栗東市観音寺地先で試験地(金勝生産森林組合所有林)を設定し、調査を行っています。

本年1月20日に調査を行い、調査結果は次のとおりでした。  
(試験地の面積は約0.1ha。平成10年の調査データを含む。)

表：マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ林の状況

調査年	成立木数	平均樹高	平均胸高直径	備考
H4	300本植栽	0.3m	—	苗木植栽
H10	216本	2.5m	—	
H22	165本	11.1m	14.4cm	(H22/1/20調査)

(注) 成立本数の減少は、被圧木の伐採等によるものです。松くい虫による松枯れの発生は、発生していません。



現況写真：林外から(左)、林内の状況(右)

現在林齢は19年生で、1haあたりの成立本数は1,650本です。アカマツ人工林としては特に問題なく成長をしていますが、平均樹高も約11mに達しており、松くい虫加害の可能性も今後高くなることから、継続して調査を行っていく予定です。(溝井)

## ◆平成21年度「森づくり県民講座」の概要



入門編：生杉ブナ原生林訪問（6／14）



入門編：間伐体験（6／28）



中級編：チェーンソーの整備（9／13）

県民の皆様による、「県民協働の森林づくり」を進めるための人材育成を目的として、平成19年度から、森林センターでは「琵琶湖森林づくり県民税」を活用して、「森づくり県民講座」を実施しています。ここでは、平成21年度の取り組みを紹介させていただきます。平成21年度においては、入門編2回、中級編3回、上級編1回の計6回で実施しました。

入門編では、森に親しんでいただくために、6月14日に高島市朽木生杉のブナの原生林を訪れ、朽木いきものふれあいの里館長の青木繁氏にブナやミズナラなど、さまざまな樹木の特徴を説明いただき、参加者の皆様は、初夏の森を楽しんでおられました。

6月28日には、森林ボランティアの活動を始められる準備として、蜂やマムシ被害に対する注意事項の講義と間伐、樹木ウォチングなどの体験をしていただきました。間伐では「生まれて初めて木を伐採してみて、ヒノキの皮が簡単に剥けることや木肌がみずみずしく滑らかで良い香りがすること」に多くの方が感激されていました。

中級編では、里山で実践できる知識や技術を習得していただくための講義を行いました。

9月13日には、チェーンソーや刈り払い機の事故を未然に防ぐために「林業機械の安全な使い方と整備方法」について、普及指導協力員の前田正治氏に講義と実技をお願いしました。この内容につきましては、安全のために毎年実施したいと思います。

森づくりの活動を通じて森を楽しんでいただこうと、9月27日には、みなくち子どもの森の横山明子氏に「野生きのこの採取と同定」を、11月8日には玉園中学校講師の小西民人氏に「里山の樹木の見分け方」また、普及指導協力員の入江清次氏に「オイル缶を利用した炭焼き」をそれぞれで指導いただき、大変好評をいただきました。



上級編は、7月26日に森づくりのリーダーを養成するため、森林総合研究所関西支所の大住克博氏に「里山に入る前に考えること」と題して、里山林の歴史や健全に育成する方策などを幅広い視野から講演いただくとともに、県職員が「琵琶湖森林づくり条例」など、県の森づくりの考え方や補助制度、また、森林センターで貸し出しているヘルメットやナタ、ノコギリ、チップパーなどの機器の説明を行いました。

森林整備を進め資源を活用することは、地球温暖化対策に貢献するとともに、森林や農作物に被害をもたらすニホンジカなどの野生動物と人との棲み分けを明確にし、被害減少にもつながります。

さらに多くの県民の皆様には森林の応援団になっていただくために、来年度も講座を計画しています。第1回目は5月に県内最高峰の伊吹山を訪ね樹木やお花畑の植生観察を予定していますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

なお、県民講座の年間スケジュールにつきましては、森林センターのホームページに4月以降掲載する予定をしておりますので、ご覧くださいませよう、お願いします。(和田)



中級編：野生きのこの同定（9 / 27）



中級編：オイル缶を利用した炭焼き（11 / 8）



## 普及情報

### ◆琵琶湖博物館における「里山体験教室」

琵琶湖博物館では、「里山体験教室」を年4回、実施しています。こちらは「森づくり県民講座」とは趣や対象も少し違います。目的は、ありふれた自然（里山）が、すぐ側にあることに気づいてもらうこと。さらにはそのつきあい方を探してもらうことです。そのために、四季を通じて、里山に入ることで、季節の移ろいに気づいたり、里山から続き広がる川や湖、マチや田畑という空間に気づいたりしてもらえるよう、参加者のカラダやアタマ、ココロを養うお手伝いをしています。



つまり対象は、里山とのつきあい方をすでに見出した人ではなく、これから探す人、探している人です。なので、采られている方も、小さいお子様連れのご家族や年配のご夫婦などが中心です。

かつて日常の中に里山や森が組み込まれていたように、現代においても、それぞれの方が自分なりに日常の中に里山や森の、新たな組み込み方を見つけ、実践していくことを支援しています。ひいては、それが「いのち」

を感じる生き方の学びの場となるのだと確信し、そのような場となるよう心がけています。

というわけで、琵琶湖博物館では、以下のような呼びかけをしています。  
「あなたも、里山の四季に触れてみませんか。里山は人とともに歩んできた人里を取り巻く自然です。里山体験教室では、四季折々の里山の魅力を感じ、里山を体験する機会を提供しています。あなたの里山デビューをお持ちしています。」 (西村)

各種お知らせ

◆平成22年度森づくり県民講座

平成22年度森づくり県民講座(年6回)

次の日程で行われる予定です。

- 第1回 ●(入門編)「伊吹山の植生観察と散策」  
平成22年(2010年) 5月23日(日)
- 第2回 ●(入門編)平成22年(2010年) 6月20日(日)
- 第3回 ●(上級編)平成22年(2010年) 7月25日(日)
- 第4回 ●(中級編)平成22年(2010年) 9月26日(日)
- 第5回 ●(中級編)平成22年(2010年) 10月24日(日)
- 第6回 ●(中級編)平成22年(2010年) 11月14日(日)



編集・発行 滋賀県森林センター  
〒520-2321 滋賀県野洲市北陸978-95  
TEL 077-587-2655 FAX 077-587-6527  
ホームページ <http://www.pref.shiga.jp/d/shinrin-c/>  
Eメール dj36@pref.shiga.lg.jp (担当:西村)

2010年3月発行

この印刷物は古紙パルプを配合しています。